

地震学習と実際の地震

小笠原 隆政 69 学習塾経営(高知市棧橋通)

中学1年生の理科で3学期、地震について学習します。以前は上級生で出ていきましたが、私は「早くからこのカリキュラムを学ぶ事は大切だ」と、大きな地震がわが国を襲う度に感じていたのです。

試験では地震用語や初期微動のP波や主要動のS波の速さ、そして発生した時間を求める問題などが問われますが、実際の地震にどれだけこの知識は役立つでしょうか。

私は「地震が来た時にまずどうするべきか」など、初期対応を出題すべきではないだろうかと、前々から感じていました。

それは理科の授業範囲ではないかもしれませんが、阪神淡路大震災や東日本大震災、そして熊本地震後から、単に知識だけの地震の問題が解けるだけではだめで、私は感じています。

生徒に、まず地震が起きたら机の下に身を隠し、揺れが収まったら家庭ではブレーカーを落として近くに

ある高台や津波避難ビルに逃げる事を、地震学習の時は一緒に指導しています。

新年早々の能登半島地震の発生できっと、学校の地震の授業では、一般的な地震の問題の他にまず自分の命を守るための授業が行われている事でしょう。

南海トラフ大地震への注意喚起がいわれて、久しいです。津波が必ず来襲するこの潮江棧橋地区には、多くの市民が居住しています。一度、県内で休日を作り県民一斉の地震避難訓練を実施するべきではないだろうか、と強く思います。

7年前、夫が89歳で亡くなり、私は独居となった。2人の息子は、東京の大学を卒業すると東京で就職し、他県の娘と結婚し、郷里の土佐へ帰高するのは年に1度、お正月くらいであ

からとすべ帰る。毎週水曜日は「あったかふれあいセンター」へ送迎があり、出席する。そこではカラオケ、ゲーム、講演等あり楽しい。残り少ない年月をいかに

がん検診の勧め

吉田 基 64 会計年度任用職員(南国市大浦)

令和5年8月30日 人間ドックで血便が見られ、精密検査を指示される▽9月4日 O 肛門科訪問、内視鏡検査予約▽10月4日 大腸内視鏡検診▽同27日 生検でがんが見つかりK医療センター受診▽11月19日 K医療センター入院▽同21日 腹腔鏡手術で直腸切除▽同29日 退院▽12月6日 職場復帰

現在、第3ステージ(リンパ節転移あり)で、抗がん剤を服用して治療を継続しています。

手術後は昼夜の頻便に悩まされ、抗がん剤の副作用が時々、気分も悪くなる中、確実に快方に向かっていくと信じ勤務しながら頑張っています。

その間、私を取り巻く周りの人たち(医療機関、家族、職場の仲間)が支えてくれました。

とりわけO肛門科の看護師さんには頭が上がりません。もともと自覚症状もなく、血便は痔によるものだとかをくくっており、実はいったん、内視鏡検診をお断りしたのです。

ところが、看護師Kさんより私のスマホに電話をいただき、検診を強く勧められました。これには説得力があり、言われるままに受診しました。

最近、患者本人の意思の尊重に重きを置かれる中で信念に基づいて説得いただいたこと、今となっては感謝に堪えません。寿命は確実に延びたわけですから。

私も医師の指示にきちんと従い、完治まで頑張りたいと思います。皆さんもちよつと異常を感じたら、迷わず検査を受けられますこと、お勧めします。

いっ起るか分からない南海トラフ地震を思い、人ごとではない能登半島地震。被災地への思い、エールなどもお寄せください。

いい部活の後輩が毎日、須崎からJRで通ってきゆうもん。汽車が

に、オピニオン